



アキアカネと色づいた稲穂 (東温市井内)

## 当院の未来像

ずい分と涼しくはなりましたが、皆さん体調などいかがでしょうか? 当院も愛媛医療センターの名称変更後3年が経過し、本年4月からは松山救急医療圏の二次輪番に参加しました。療養所時代の雰囲気は一掃され急性期病院への変化が進んでいます。看護師・検査技師・薬剤師・事務および医師には負担が増え疲弊しないように注意が必要で気分転換などに努めています。

東温市からの要望で病院前の道路の拡張工事も計画が進みつつあり、当院の敷地の一部も道路に変わります。桜の木などの伐採が必要で道路側からの景色もかわります。今まで秋の落ち葉でご迷惑をおかけしましたが、今後は減ると思われます。

病院の差別化が今後進み当院は急性期病院として生き残る予定です。電子カルテ導入や外来棟の建て替えを経て整備が充実すると思われます。そのためにも経営の安定化が急務です。急性期病院としてはやはり研修医や専攻医を始め看護師等若い力が必要です。新人に選んでもらえる病院にならなくてはいけません。最近、『率先垂範』という熟語が話題になりました。部下の指導やチーム医療には率先して引っ張るものが模範を示すことが大事ではないかと考えています。時代もかわり昔ながらの指導では難しい点もあるとは思われますが、頑張っていきたいと考えております。

統括診療部長 久保 義一

談笑交歓 金樽に酔い饌玉を味わう

## 第7回 地域医療連携交流会

各医療機関との連携を深めることを目的として、愛媛医療センター地域医療連携交流会を平成28年9月9日(金)ホテルサンルート松山にて開催いたしました。今年で第7回目となる地域医療連携交流会は第1回目開催以降初めて松山市内の会場にて開催したところですが、各病院や施設の院長先生、医師、看護師、MSW、事務職など90名を超えるご来賓を頂き、当院の職員も含め約130名の盛会となりました。

はじめに院長が当院の診療機能・歴史・院内施設・紹介件数の推移等を説明した後、当院の職員紹介が行われ、続いて来賓の松山市医師会長 村上博先生のご挨拶、東温市医師会長 八木拓先生による乾杯ご発声の後に、料理及び飲み物にて食事をしながら和やかな雰囲気の中で意見交換を行うこ



とができました。また、ご来賓頂いた46医療機関それぞれの特徴を含めた自己紹介をして頂き、より親睦を図ることができました。

今後においては医療機関の病床機能分化、開業医の先生方、介護・福祉施設等との連携強化による地域医療の充実が求められます。当院もより良い連携関係が構築できるよう取り組んでいきたいと思っております。

ご多忙の中、多くの方々にご来賓頂きましてありがとうございました。

経営企画室長 小山 敦史





# 地域の輪



## 社会福祉法人ミュゲの会 特別養護老人ホームミュゲの里

### 繋がる地域医療連携

特別養護老人ホーム ミュゲの里は、平成23年4月1日東温市見奈良に開設した定員39名の小規模な施設です。地域密着型特別養護老人ホーム(定員29名)は、東温市在住の要介護3~5の方を対象としています。また、併設していますショートステイ(定員10名)は東温市だけでなくそれ以外の地域の方でも御利用いただけます。

ミュゲの里の“ミュゲ”は、フランス語で“すずらん”のことで、花言葉は『幸せを運ぶ』です。『御利用者様・御家族様そして地域の皆様に幸せをお届けする』ことを、基本理念に掲げて運営しております。施設は、東温市中心部にあり、隣接す



る東温高等学校から日々高校生の快活な声が届いてきて、自然と元気が湧いてきます。また、隣家の御庭は広く、御厚意から自由に散策させていただいていますが、四季折々の花や木に触れ合うことにより心が癒されます。

さて、御利用者様には、快適な空間と時間を提供するように努めていますが、そこには安心・安全が強く求められています。軽度の体調変化には、施設看護師と中野クリニックと連携し合っ、施設内で対応しています。しかし、施設内での対応が困難な状態、重篤な疾病を発症した場合には、愛媛医療センターの先生・スタッフの皆様にも、無理を承知で御診療を御願ひする事が多々あります。それに対し、常に迅速に快く対処していただき、本当に感謝しております。誠に有難うございます。これからも、地域に根差した、皆様に親しまれる施設を目指していきたく思います。また、26年6月に開設致しましたサービス付き高齢者向け住宅“リーブル ミュゲ”及び“デイサービス アルモ”も合わせて何卒宜しく御願ひ申し上げます。

施設名：社会福祉法人ミュゲの会  
特別養護老人ホームミュゲの里  
住所：東温市見奈良738  
電話：089-955-1133  
ファックス：089-955-1134

## 命名「本館」

愛媛医療センターの病棟が完成してから3年が経過し、「新病棟」に代わる呼称について職員の皆さんに応募を呼びかけたところ、12点の応募がありました。これを幹部会で検討した結果、下記の呼称が選ばれましたのでご紹介いたします。

呼称 本館(ほんかん)

理由

- 新病棟には、薬剤部、手術室、中材、リハビリ等の病棟以外の部署もあり、呼称の一部に「病棟」という言葉を用いていない。
- 今後の建替整備は、位置的にも新病棟を中心に展開することから、シンプルで覚えやすい。

今後、院内の文書、案内等について順次「新病棟」から「本館」に切り替えていくこととなりますので、よろしく御願ひいたします。

## 職員募集

職種：ナースアシスタント  
(非常勤)

勤務内容：病棟内の看護助手業務

給与等：時給880円

通勤手当・賞与あり

勤務時間：週32時間以内

休暇：有給休暇・無給休暇

福利厚生：社会保険 厚生年金

雇用保険

選考方法：書類選考後、面接による選考

お問い合わせ先：

愛媛医療センター

〒791-0281

東温市横河原366

TEL089-964-2411(代表)

担当/管理課 庶務係長(田中)





# 格物究医

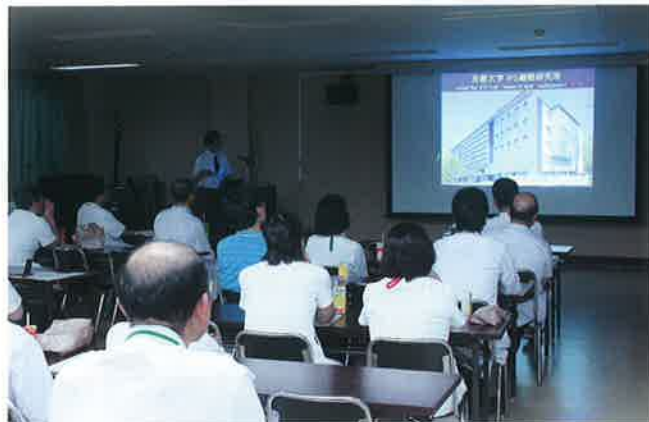
## 臨床研究部講演会

平成28年7月7日に恒例の臨床研究部講演会を開催致しました。今回は京都大学呼吸器内科（iPS細胞研究リーダー）の後藤慎平先生に「ヒトiPS細胞を用いた呼吸器研究と今後の展望」と題して、CiRAの現状とご自身の研究チームの最新の成果を平易にお話いただきました。

7種ある肺構成細胞についての研究は遅れている現状でしたが、多くの内外研究者と共同しながら、ヒトiPS細胞からI・II型肺胞細胞を効率よく誘導することに世界で始めて成功されました。受精卵は一定の発生段階を経て肺構成細胞に分化しますが、その段階を辿ることによって（iPS細胞・内胚芽・前方前腸・腹側前方前腸・II型肺胞上皮細胞・I型肺胞上皮細胞）効率よい誘導に成功したとのことでした。



三次元培養を  
することで...



その各段階には種々の誘導因子や細胞特異標識が必要であったこと、三次元培養が有効であったことなど、独自の工夫を披露されました。現在、他の肺構成細胞（気道基底細胞、気道神経内分泌細胞、粘液産生細胞など）の誘導も考えられており、創薬・病態解明に繋げたいとのことでした。

どの研究室でも容易に細胞誘導できる方法を開発すること、さらに将来的には肺細胞（肺組織）移植に結びつけることが今後の課題とのことでした。

後藤先生は30歳代後半で、今後さらに活躍が期待されます。最新研究に感心させられると同時に、日本の医学研究の将来にとって頼もしく感じられました。

今回も参加いただいた皆さん、運営を分担いただいた臨床研究部関係者に感謝致します。

臨床研究部長 松田 俊二

## ふれあい看護体験

### ナースのここがスゴ〜イデスネ

7月27日にふれあい看護体験を実施しました。「看護」に興味のある高校生10名の方が参加されました。私たちは参加者に看護の仕事に少しでも関心を持っていただけるよう話し合いを重ね、計画を立てました。

当日は、白衣に着替えて写真撮影、病棟案内、一般病棟での看護体験、手洗い体験（手洗いチェッカーを使って目に見えない洗い残しを確認する）などを行いました。看護体験では、実際に患者さ



洗髪体験



今日1日  
がんばります！

んとコミュニケーションを図り、車椅子移送、洗髪、手浴、足浴などを行いました。参加者からは、「今までは看護の仕事を見学しかしたことなかったが、実際に体験もできてよかった」「患者さんからも話を聞いてよかった」「患者さんから『ありがとう』と言ってもらえて嬉しかった」「看護師になりたいという気持ちが強まった」など、感想が聞かれました。

企画した私たちも「学生時代や看護師になったばかりの頃の初心を思い出させてもらった」「参加者の皆さんに喜んでいただけてよかった」など、この体験を通し達成感を得ることができました。

私たちは、参加してくださった方に一人でも多く「看護」に関心を持っていただき、いつか同じ現場で働けることを願っています。

3階病棟看護師 小田 紗希花

# 医 心 伝 心

虚血性心疾患のおはなし

「歩くと胸が痛い」「歩くと動悸がする」「歩くと息切れがする」こういった症状を日常自覚することはありませんか？すぐに良くなるから放置している人も多いのではないのでしょうか？

虚血性心疾患とは狭心症、心筋梗塞のことを総称して言いますが、いずれも動脈硬化が原因で発症すると言われています。動脈硬化は生活習慣病とも非常に関係しており、糖尿病、高血圧、高脂血症、喫煙などで進行していきます。放っておくと、気付いた時には突然死するような心筋梗塞や脳梗塞など重篤な病気を発症してしまいます。こういう怖いことを未然に防ぐため、生活習慣病への早期介入と動脈硬化のスクリーニングが必要になってきます。

心臓の領域からいうと、最近、CTで冠動脈の評価を行うことが非常に多くなっています。低侵襲で狭窄の診断ばかりでなくプラークの描出も可能であり、心臓の血管に対して治療が必要かどうか

各科のドクターがそれぞれの専門分野から、病気・治療・予防等々フリーテーマで一文をしたためます。

ある程度診断が出来るようになっていきます。造影剤を使用するためアレルギーのある方、喘息の方、腎臓の悪い方は行うことは出来ませんが、非常に冠動脈のスクリーニングとしては患者様にメリットのある検査と思います。

胸の症状がなくても、心電図や心エコーで異常がなくても、実は動脈硬化が非常に進行している人もいます。高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙などのリスクがある方は、こういった検査をスクリーニングとして行うことはいいのかもしれませんが。

循環器内科医師 泉 直樹



## 四 季 燦 餐

～きのこの巻～

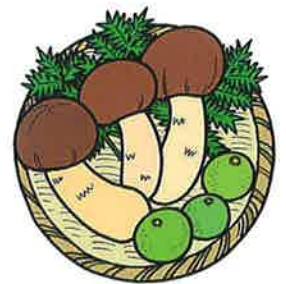
暑さも少しずつ和らぎ、秋の訪れを感じられる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。秋の代表的な食材として挙げられるものには、「さんま」「さつまいも」「栗」「柿」がありますが、今回は、「煮てよし！焼いてよし！」の『きのこ』についてご紹介します。

『きのこ』は、特定の樹木に発生したことから、木の子供「きのこ」と呼ばれるようになったと言われています。「しいたけの椎」、「まつたけの松」など特定の木にしか発生しないきのこや、人々が集まって踊っている姿に似ていることから「舞茸」、地面を占領するほど辺り一面に生えることから「占地（しめじ）」と名付けられたものもあります。

栄養面では、食物繊維が豊富で、便秘の解消に必要な不溶性食物繊維と腸内の環境を整えてくれる水溶性食物繊維の両方を含んでいます。また、カルシウムの吸収を促進してくれるビタミンDやカリウムも豊富に含まれています。カロリーはほとんどなく、ボリュームを出したい時のお助けにはGoodです。

調理の際は、すばやく加熱すると香りや歯ごたえが残ります。また、油も水分も吸収しやすいので、調味油はもちろんのこと、一緒に焼いた肉や魚の油や食材から出る栄養素やうまみも吸収してくれるため、他の食材と一緒にとると栄養が無駄なく摂取出来ます。

カロリーが気になる方だけでなく、お身体をよりよく維持したい方も毎日の食卓に、『きのこ』を取り入れてみませんか。





# 医療安全室 だより

こんなことしています

# その時！あなたは救えますか？

院内では医療安全に関する様々な研修を行い、患者さまに安全な医療を提供できるよう日々学びを深めています。7月には、教育担当師長指導のもと、「急変時の対応」について講義と実技演習を2回実施しました。理学療法士、看護師が参加し、「巡回時に心肺停止患者を発見」という想定で、発見から救命まで本番さながらの演習を行いました。

最近では、駅や空港、デパート、プール、スポーツセンターなど各施設等様々なところにAEDが設置され、一般の方も救命処置に参加する機会が増えています。そこで、今回は救命処置のポイントを紹介いたします。

- ①倒れている人を発見したら、左右の肩をたたいて意識の確認をしましょう。
- ②反応がなければ大きな声で助けを呼びましょう。119番通報の依頼。  
AEDがあれば持ってきて準備してもらいましょう。
- ③呼吸をしているか確認しましょう。→胸と腹部の動きを10秒以上見る。
- ④呼吸していなければ→胸が約5センチ（小児の場合は胸の厚さの1/3）沈む程度の強さで1分間に100回以上120回以下のテンポで胸骨（胸の真ん中）を圧迫します。30回圧迫、2回の人工呼吸を繰り返します。（出血がある、感染の恐れが

あるなど人工呼吸がためられる場合は、胸骨圧迫のみを行ってください）

⑤AEDで電気ショック（音声ガイドの指示に従って行います）。

- \* 傷病者から離れましょう。（身体に触れない）
  - \* 救急隊が到着するまで救命処置を続けましょう。
- ここに掲載しているのは、あくまでも救急処置のアウトラインです。興味のある方は救命講習を受講されることをお勧めします。



## 糖尿病 和やかに 教室 グループディスカッション

当院では、「地域に根差した糖尿病医療を行う」ことを目的に、平成23年から糖尿病チームが発足しました。医師を中心に看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士、検査技師、MSW、事務職員などの多職種が協力して活動にあたっています。

糖尿病チームの活動のひとつとして、糖尿病教室を実施しています。糖尿病教室では、毎回2題の演題を用意していますが、これまでに講師として院内外の医師をはじめ、看護師、栄養士、薬剤師などからお話しさせていただきました。講義と講義の間には理学療法士による「ちょこっと運動（気軽に取り組める運動）」の実施や、当院調理師の手作りのおやつも提供させていただき好評を得ています。

また、11月の糖尿病教室は11月14日の世界糖尿病デーにあわせ、ブースをいくつか設置し、皆さんと直接お話しさせていただき、実際に血糖値を測定するなどの機会を設けています。

そして、昨年度から新たな取り組みとして「参加型糖尿病教室」を実施しています。これは参加者の皆さんと当院スタッフがグループに分かれ、テーマ

に沿って自由に話しをする、といったものです。話し合った内容は最後に発表し、全体で共有しています。初めての試みであり、開始当初は「参加者の皆さんがお話していただけるのだろうか…」という不安がありましたが、なんのその！イキイキと、本当に楽しそうにお話しする参加者の皆さんをみて、私たちが圧倒され、私たちが皆さんから逆にパワーを頂くくらいでした。

糖尿病教室は、年4回実施しています。対象は糖尿病患者さんとそのご家族、及び糖尿病に興味のある方です。皆さん、是非、私たちと一緒に糖尿病について正しい知識を学び、仲間をつくりませんか？皆さんの参加を心よりお待ちしております。

3階病棟副看護師長（糖尿病療養指導士） 和田 泰生





私たち在校生と教員とが協力し、皆様に看護の仕事と本校の実際を知って頂く事を目的に、オープンスクールを開催しました。今年は7月23日、31日の2日間で行い、計114名もの方に参加していただきました。ご参加頂きました皆様、ありがとうございました。

当日は、午前中に学校の概要説明と学校教員による清潔ケアの公開講座、午後からは「手浴」、「沐浴・妊婦体験」「避難所体験」の3つの看護体験と在校生との交流会を企画しました。手浴では「とても気持ちよかったです。」などの感想が聞かれ、お手伝いさせていただいた私たちもうれしく感じました。沐浴・妊婦体験では、赤ちゃんの沐浴に緊張も見られていましたが、みなさん笑顔で楽しそうでした。また、今年度からは東南海沖地震も想定されている事から看護体験の中に避難所体験を取り入れました。エコノミー症候群の予防のための体操や骨折時の固定法を体験していただき、参加者からは「他の学校ではやってなかった事でとてもためになった。新たな発見があった。」「熊本地震もあり、日ごろから意識したいと思った。」などの声が聞かれました。交流会では、参加者の方から事前にいただいたアンケートの質問に対し、在校生が自

らの体験談を交え答えました。寮生活や学校生活、勉強についての質問が多くあり、リアルな体験談を興味津々に聞く様子が見られていました。楽しい学校生活をイメージしていただけたと思います。

今回のオープンスクールでは愛媛医療センター附属看護学校の魅力を感じてもらい、学校選択のきっかけとなつたらと思います。同じ夢をもつ仲間として、来年看護の道を共に歩いていけることを私たちは楽しみにしています。

第3学年 大西 未悠・伊藤 冴佳

縛るよ～



ある高等学校の校長先生が生徒向けのメッセージの中で、各年代で必要とされることを「V・S・O・P」で表していたコラムを見つけた。筆者の世代では、日本を代表する高品質ブランドをイメージしてしまうが、それとは違う。二十代はV（バラエティ）、三十代はS（スペシャリティ）、四十代はO（オリジナリティ）、そして五十代のPはパーソナリティ、なのだそう。二十代は様々な経験を積み、その経験をもとに三十代では自分が専門とするものを身につける。四十代では独自性や個性を深め、五十代では人間性を磨く。そう理解した。

我々病院職員も、免許や資格をもつ専門職集団とはいえ一朝一夕にその必要とされるスキルの全ては身につかない。日々の研鑽を積み重ねていく努力が必要である。また、専門職種としての知識や技術はもとより、我が身を患者さんの親や家族、患者さん本人に置き換え、苦痛や喜びを共感できる人間性を二十代から磨き続けなければならない、とも思う。そして、様々な年代の様々な職種がうまく調和し熟成されてこそ、V・S・O・Pの芳醇な香りでホスピタリティ溢れる良い病院と評価されていくのではないだろうか。

よっしー



愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

ちよいと言ひ放し

# 外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834 FAX 089-990-1858  
 外科外来直通電話 089-990-1835 FAX 089-990-1859

診療科	月	火	水	木	金
循環器内科	船田	岩田 関谷 泉	岩田 泉 檜垣	岩田	船田
消化器内科	古田	山内(一)	久保 廣岡	山内(一) 糖尿病専門 大藏	久保
呼吸器内科	阿部	伊東 渡邊	佐藤	阿部 大久保	伊東 中村
神経内科	小原	雑賀		小原	戸井
外科	石丸				
消化器外科		鈴木	森本	渡部(第3)	
呼吸器外科				佐野(第4) (14時30分~)	湯汲
整形外科 午前のみ診療	宮本 横手	曾我部	曾我部	宮本 大野	大野
専門外来 (予約制)	心臓外科			泉谷(隔週)	
	ペースメーカー外来			第2・4(午後)	
	糖尿病外来				古川(第2・4)
	フットケア外来			毎週	
	スキンケア外来		第1・3(午前)		
	ペインクリニック			山内(康)(午前)	
	じん肺外来				西村(第1・3)(午前)
	アスベスト外来		午後		午後
	息切れ外来	渡邊(13時30分~)			
	SAS外来				渡邊(14時~16時)
	神経難病			橋本	
	小児(神経外来)	矢野		濱田	矢野
頭痛外来				永井(第2・4)(午前)	

※外来受付は8時30分から12時までです。内科は13時から16時までです。  
 ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。  
 ※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

2016年10月1日現在

## 独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251  
 ホームページアドレス <http://www.ehime-nh.go.jp>

### 当院の位置と交通



#### 高速道路川内ICまでの所要時間

- 三島川之江IC(70km) 50分
- 高松西IC(130.9km) 1時間30分
- 徳島IC(170.9km) 1時間50分
- 高知IC(130.1km) 1時間30分  
(川内ICから当センターまで車で5分)

#### 交通機関

- 電車 伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分  
 または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
- バス 伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分  
 松山市から30分 伊予市から40分 西条市から60分  
 無料駐車場完備

※弊誌の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊誌へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会(担当:小倉)までお寄せください。